

## 緊急 備北版

### 高温に対する園芸作物の技術対策について

備中県民局農林水産事業部  
備北広域農業普及指導センター

7月以降、気温が高い状態が続いています。8月の月平均気温の平年差は、山陰で+1.8度、山陽で+1.9度となり、山陽では1946年の統計開始以降、8月として最も高く、記録的な高温となりました。今後も、更に1か月程度は暖かい空気に覆われやすいため、気温の高い状態が続く見込みで、9月12日に広島気象台発表の「中国地方1か月予報」でも、向こう1か月の平均気温は高い確率が80%と予報されています。

つきましては、今後の気象情報に十分注意するとともに、次の対策を参考に地域の実態に応じた技術対策をお願いします。

#### 1 果 樹

##### (1) 全種類共通

- ・地温の上昇と地表面からの蒸発を防ぐため、敷わら(敷草)を行うのが望ましいが、わら等のマルチ材料が十分確保できない場合は株元近くの根の多い部分を重点に行う。

##### (2) もも

- ・収穫後の樹勢回復や貯蔵養分蓄積のため、9月は10日間隔で20mm程度かん水する。
- ・かん水量を十分に確保できない場合は、根の多い部分を対象に、夕方に局部かん水する。
- ・草生園では、原則として草刈りし、敷草とする。ただし、過度な高温乾燥でかん水が十分実施できない場合は、除草せずに地温の上昇を抑える。

##### (3) ぶどう・温室ぶどう

- ・土壌が乾燥する場合は、定期的にかん水を行い、果肉の軟化や日持ちの低下を軽減する。裂果の発生を防ぐため、成熟期までは1回当たりのかん水量は少なくして間隔を短くする。成熟期までは3～5日間隔、成熟期～基肥時期は5～10日間隔で15～20mmかん水する。
- ・成熟期に達した果実は、高温下では果肉の軟化や日持ちが低下しやすいため、速やかに収穫する。
- ・高温時には着色が遅れやすいため、食味を確認して出荷し、収穫遅れに注意する。
- ・かん水量を十分に確保できない場合は、根の多い部分を対象に、夕方に局部かん水をする。
- ・早期落葉を防止するため、ハダニ類、べと病、さび病等の多発園では防除を行う。
- ・貯蔵養分の蓄積を妨げる伸長中の副梢は切除する。

## 2 野菜

### (1) 夏秋トマト

- ・日射が強いと蒸散量の増加による茎葉の萎れや尻腐果などの生理障害が発生しやすくなるので、生育ステージに応じたかん水管理に努める。
- ・尻腐果の発生が予想される場合は、開花している花房とその上の花房の周辺葉に塩化カルシウムの200倍(0.5%)液を葉裏に向けて葉面散布する。
- ・果実収穫後に25℃以上の高温や強い直射日光に当たると黄変果になりやすいので、出荷調整は涼しい場所で行い、直ちに予冷する。
- ・コナジラミ類の防除を徹底する。

### (2) 夏秋きゅうり

- ・日中に葉の萎れがみられる場合は、吸水量に応じたかん水をする。
- ・草勢が弱い場合は、不良な幼果等を摘除し、液肥を施用して草勢の低下を防ぐ。
- ・ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、ハスモンヨトウ、褐斑病等の防除を徹底する。

### (3) 夏秋なす

- ・不良果は、早めに摘除する。
- ・日射量や生育ステージに応じたかん水管理に努める。
- ・ハダニ類、アザミウマ類、ハスモンヨトウ等の防除を徹底する。

### (4) アスパラガス

- ・日射量や生育ステージに応じたかん水管理に努める。
- ・アザミウマ類、カメムシ類、ハスモンヨトウ、褐斑病等の防除を徹底する。

### (5) キャベツ、はくさい

- ・本ぼの土壌が乾燥している場合は、散水等により土壌水分を適湿にした上で、耕うん、施肥、マルチ、定植を行う。
- ・ハイマダラノメイガ、キスジノミハムシ、コナガ、ハスモンヨトウの防除を徹底する。

## 3 花き

### (1) 露地花き(フォックスフェイス、花とうがらし、りんどう等)

- ・敷きわら等でのマルチを十分に行い、土壌表面の乾燥防止に努める。
- ・降雨がない場合は、なるべく気温が低い時間帯にかん水を行う。
- ・短時間の集中した降雨では、畝内に水分が浸透しない場合があるので注意する。
- ・西日が当たる側の畝の地温は高温になりやすいため、畝の側面にもわらの束等を設置し、マルチ内温度の上昇を防ぐ。
- ・必要に応じて寒冷しゃ等で遮光を行い、植物の表面温度の上昇を防ぐ。
- ・ハダニ類、アザミウマ類等は高温・乾燥で多発しやすいので、防除を徹底する。
- ・りんどうでは、花卉の障害や白絹病の発生に注意する。

### 農作業中の熱中症に注意

暑熱環境下での農作業は、熱中症（熱射病、熱けいれん、熱まひ）を生じる恐れがあるので、次の事項に注意してください。

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等、作業時間の工夫を行う。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に気を付ける。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をする。作業場所には日よけを設ける等、できるだけ日陰で作業するように努める。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努める。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気する。